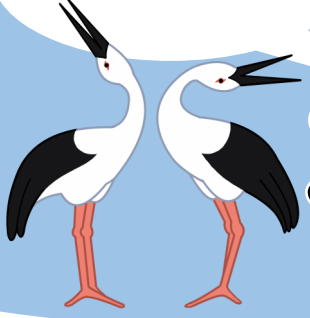


コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第171号

「ついに繁殖」

2025年4月7日

前回（第168号）は、産卵して抱卵を始めた、というお話でした。今回は、その続きです。

いつも通り観察カメラの録画を確認していると、気になることが。

3月29日13時頃、転卵している様子を拡大してみたところ、卵に小さな穴が開いていました。1卵目のこともあり、しばらく注意して観察していると、穴の中で小さな嘴が動くのが見えました！

「嘴打ち（はしうち）」です。嘴打ちとは、鳥のヒナが孵化する前、卵の殻を内側からくちばしでつつく行動のことです。時間をさかのぼっていくと、28日の23時頃にはもっと小さな穴が確認できました。

予定より1週間ほど早かったので、急遽エサのドジョウを調達しにいくなど、スタッフがバタバタと見守る中、16時頃に無事に1羽孵化しました。続いて2羽目も、その夜22時頃に孵化しました。

ここまでで「おや？」と思いませんか？思った人は、カタカタ通信を読み込んでくれている方でしょう。前回のカタカタ通信では、3月4日に産卵したとお伝えしました。コウノトリの抱卵期間は約1か月。そこからでは、孵化日が1週間以上早いのでは……？

では、種明かしです。花（♀）が5卵目を産卵してから1週間以上経ったところで、抱いている卵を回収して擬卵（ぎらん・本物そっくりの偽物の卵）と置きかえました。卵の中を確認するためです。

暗くした部屋の中で、回収した卵に光を当てて検卵をすると、中の様子がわかります。念のため、孵卵器に数日入れてみましたが、様子は変わらず無精卵と判断しました。

無精卵ということがわかったので、今度は托卵（たくらん）に切り替えることになりました。托卵とは、鳥が他の種類の鳥の巣に卵を産み、自分の代わりに育てさせることです。托卵をする鳥はカッコウが有名ですね。今度は抱いている擬卵から、有精卵に交換して抱卵してもらいました。

ということで、花が産んだものではなく托卵した卵だったので、予定より早い孵化となりました。

空と花は、食べた餌を吐き出してヒナに与えています。その話は、また次回をお楽しみに。



孵化したヒナ



はき戻して給餌中

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：しみじい